

1 成範¹ 民部卿²、事ありて後、召し返されて、³ 内裏に参られたりける

に、A昔は女房⁵の入立⁶にてありしBの、今はさしもなかりければ、
今はそもそもできなかったのだ。

女房Cの中より昔を思ひ出でて、

7 雲の上はありし昔にかはらねど見し⁸ 玉垂⁹の内や恋しき

と詠みて出だしたりけるを、返事せDむとて、灯笼の際に寄りけるほどに、

9 小松の大臣の参り給ひければ、「急ぎ立ち退く」とて、灯笼の火の¹⁰か

きあげの木の端にて、「や」文字を消ちて、Fそばに、「ぞ」文字ばかり

を書きて、¹¹ 御簾の内へさし入れて出でられにけり。

女房取りて見るに、「ぞ」文字一つにて返しをせられたりける、ありが

たかりけり。

問一 傍線部Aは誰か。文中の語で答えなさい。

問二 傍線部B～Dの文法的意味を答えなさい。

問三 傍線部F「そば」とは何のそばか。

問四 成範民部卿と女房が詠んだ和歌の現代語訳をそれぞれ記しなさい。

成範民部卿 || 宮中は以前の昔と変わらないけれど、(昔)見た

女房 || 宮中は以前の昔と変わらないけれど、(昔)見た

1 成範||藤原成範。

2 民部卿||民部省(一般政務をつかさどった律令官制の一つ)の長官。

3 事ありて後||平治の乱での父信西入道の罪によって、下野の国(現在の栃木県)に流されて、その後という意。

4 内裏||天皇の住む御殿。皇居。

5 女房||宮中で働く女性。高位の女性に仕える。「奥さん」の意味ではない。

6 入立||宮中の台盤所(台所。女房たちがいる所)に入ることを許されること、また、許された人。ここでは後者。

7 雲の上||宮中のこと。

8 玉垂||玉で作ったすだれ。

9 小松の大臣||平重盛。成範卿を赦免し、京に戻した人。

10 かきあげの木||灯心(灯火の芯)をかきたてる棒。

11 御簾||玉垂。すだれのこと。女性は、外から部屋が見えないように、すだれを下ろした。

問 次の文章を現代語訳しなさい。

①もと光る竹なむ一筋ありける。

】

②よろづの遊びをぞしける。

】

③空晴れたり。雨や降らむ。

】

④雲出で来ぬ。雨や降らむ。

】

⑤いづれの山か天に近き。

】

⑥これや我が求むる山ならむ。

】

《内容理解の背景》

①藤原成範は、平治の乱を起こしたとされる父・信西が亡くなったため、その罪によって流罪になった。その後、平重盛によって赦され、京に戻った。

②藤原成範には、親しくしていた女性（彼女？婚約者？）がいた。京に戻った後、その女性の所に行ったのである。

解答

空欄 a 成範 b 成範 c 成範

問一 成範

問二 B 主格 C 連体修飾格 D 意志

問三 や

問四 成範Ⅱ玉垂の**中**が恋しい

女房Ⅱ玉垂の**中**が恋しいだろうか